

# 第6回高浜市こども貧困対策会議 議事要旨

日 時：平成31年2月18日(月)  
10時00分～12時00分  
場 所：いきいき広場2階ホール  
委 員：資料のとおり

## 1. 開会

## 2. 前回の議論を踏まえた対応方針等について

資料2に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

- ステップ・ジュニアについて、クリスマス感謝祭への親の出席に、子どもたちの拒否感があるとのことだが、どのような反対意見があったのか。
- 子どもたちが、ステップでの活動を親に見られるのが恥ずかしい、という趣旨。
- 学習支援を利用している子どもたちは、生活困窮だけでなく、複合的な課題を抱えているように思う。外国にルーツのある子どもたちや、日本国籍でも日本語が不自由等で不登校となっている等、複数の課題を抱えている子どもはいないか。  
実態の把握状況について、やっていることがあればお聞きしたい。
- 複合的な問題という点では、学習支援の対象者がひとり親もしくは貧困、ということであることに加え、中には不登校の子や特別支援学級在籍の子、外国から転入してきた子もいる。ただし、外国にルーツを持つ子どもについて、学習支援に来る生徒・児童はかなりの成長が伺え、現時点ではことばの問題は生じていない。
- 学習支援だけではなく、市の教育全体の問題として考えて欲しい。高浜市でも、愛知県全体でも外国にルーツを持つ子どもたちが増えており、いずれ学習支援でも直面することになる。学校での状況等をお示しいただきたい。
- 今年度の状況として、外国から年度途中で直接転入してくる子どもが特に増えた。  
小学校低学年から転入してくる子は問題なく進学できるが、中・高学年からだとなかなか厳しい現状がある。
- 愛知県の多文化共生の高校進学のためのガイドブックでは、日本と外国にルーツを持つ世帯とでは、文化的な違いが大きいとの報告がなされている。国によっては高校の入学試験が無いところもあるため、親に日本の受験状況や、その大変さについて理解してもらう必要がある。また、母国と日本を何回も行き来しているケースもあり、このような世帯も対応が難しい。

○全体的な話としては、市民で外国にルーツをもつ方の割合は全体の7%、学齢期の子どもは6%で推移している。国籍別では、圧倒的にブラジルが多く、平成30年度頭の小中学生数は、ブラジル180、フィリピン37、ベトナム15等となっている。

市内での状況としては、翼小学校区が最も多く10%以上、次いで港小学校区となっており、最近では南部に転入が多い。地域によっては、同じ国にルーツを持つ世帯が近隣に固まる傾向があり、その中でネットワークが形成されている。

また、転入だけでなく転出も多い状況があり、さらに外国人の小中学生の教育は義務ではないということで、もともと学校に行っていない子どももいる。

○高校での状況をお話すると、高等学校では入試もあるため日本語が全く理解できない子どもは入ってこない。むしろ逆に、外国にルーツを持つ子どもは語学力に秀でており、英語で好成績を収める等、見どころのある生徒も多い。ただし、今後少子化により定員割れが生じた際、日本語が不自由な生徒が入ってくる可能性があり、学習支援事業でも今後対応できれば、と思う。

○愛知県教育委員会の定時制と通信制の問題を考える委員会でも外国にルーツを持つ子どもたちの増加について議題になったが、対応する余力や予算が無く、難しい、とのスタンスであった。例えばアメリカでは移民が前提の社会なので、徹底した英語教育を施し、才能を見出し、社会を支える一員として活躍させている。日本でも参考とすべきだと思う。

○中学を卒業した子どもに対する県の施策だが、名古屋市、豊田市、豊橋市において、高等学校卒業程度認定試験をうけて大学や専修学校に行くための支援や、中学校卒業程度認定試験の支援をしている。来年度、半田市も対象に加えるとの話もあるので、近隣市が対象になることで、高浜市でも広がっていく可能性も出てくる。また、愛知教育大学でも日本語教育のリソースルームを作って、ボランティアの派遣や支援者の研修等、支援を行っているので、連携することも考えていただきたい。

○県の施策として、市内の学校に県費で日本語教育適応学級担当教員を配置していただいている。加配教員として配置しており、日本語が苦手な子どもは、別クラスで習熟度に応じた日本語の授業を受けることができるようになっている。

○昨年、オランダに視察に行ってきたが、オランダでは移民等が多く、外国にルーツを持つ子どもに関する課題が大きかったことを受け、子どもの状況に併せた指導を徹底したところ、高校を中退する子どもがほぼゼロになるという成果をあげている。子どもが分からない状態を放置せずに個別に対応している、という点が非常に優れており、同様の問題が今後、日本でも起きていくと思われるので、参考になると思われる。

### 3. 学習支援事業と地域との連携について

資料3に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

○すこやかサタディ（子ども食堂）について、説明があったように、参加者が多くて座る場所がない、ときには大人が食べることができないこともある。

事業を立ち上げるにあたって、市内各所に協力をお願いして回ったが、1か所の反対もなくスムーズに立ち上げができた。20年以上地域活動をやってきたうちに育まれた関係あってこそ、と考えている。

また、「男の料理教室」のメンバーに農協の人が2人おり、運営委員をやってもらっていたことも手伝って、実質2か月程度の準備期間で始めることができた。

さらに、「あっぽ」の会場も、高齢者がいて、そこに子どもが来ることで、昔のお寺のような雰囲気になり、そこから新しい交流が生まれたのではないかと思う。

今後、こうした地域交流の拠点を福祉施設が担っていく、という在り方もあるのではないかと考えつつ、こうした思いで2年間続けてきている。

なお、事務局から会場が手狭になっているとの話があったが、別地区でもう1か所会場を増やすことを考えており、次回の会議で説明できればと考えている。

○子どもたちについても、最初の頃と大きく変わっており、子ども同士もきょうだいのようになり、大人との語らいも増える等、まさに「大家族たかはま」に近づきつつある。ここから新しいものが生まれてくることを楽しみにしている。

○今回ご提示いただいた資料は、ステップが立ち上がる際に、食事支援が必要とのアイデアが出て、その中で南部まち協さんが手を挙げてもらって昼食支援が入った経緯や取り組み状況をまとめた資料として貴重なものだと思う。高浜市は学習支援と食事支援を車の両輪と位置づけ積極的に取り組んでおり、これを広く発信して行って欲しい。

○子ども食堂は、全国でも300か所に広がっており、学習支援と食事支援を結び付けている点に高浜市の特徴があるので、発信して行って欲しい。また、大家族のようになっている、とのお話があったが、何か働きかけをしたのか。

○先ほど、お寺のような場所づくり、という話をしたが、特別な働きかけをした訳ではなく、様々な世代の人を集め、輪を広げていったところ、自然とそうなった。

○お寺のイメージや、みんなの居場所を作る、という理念でまちづくりを進めていったのが功を奏したのだと思う。

○外国にルーツを持つ子どもを含め、子どもたちが大好きなメニューが「とり飯」になっている。ステップやすこやかサタディに通うことにより、郷土の味を自然と受け入れ、その土地に根を張る一助となっている。ルーツは様々でも、同じ食を共有することで、相互理解や人格形成に大きな影響を与えていると感じている。

#### 4. 平成30年度のステップの実績と今年度の展開について

#### 5. 平成30年度のステップ・ジュニアの実績と今年度の展開について

資料4及び資料5に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

○ステップ・ジュニアについて、日頃から子どもたちがお世話になっており、ありがたく感じている。多くの方が携わっての丁寧な学習支援、特に宿題が出せるようになった、ということだけでも子どもたちにとって大きな進歩だと感じている。また、アンケートでも「色々な人と話せるようになった」、という回答があり、学校ではめったに経験できない体験講座等もある等、生活を送るうえでの根源となる大切な時間を作ってもらっていると感じている。さらに、高校生サポーターの存在も大きく、大人とくらべて距離感の近い高校生に支援してもらうことによって、より話しやすい雰囲気になっているのだと思う。

アンケートの自由記述では、子ども食堂のアンケートで「ごはんの前の時間は何をしようとよいと思うか」という設問に対する回答で、「勉強したい」といった回答や、「カードゲームをしたい」などの集団で遊びたいという回答、また、「うるさくなくて節度のあること」といった回答がある等、子どもたちの成長が伺える。

一方で、「寝る」、「しらん」といった回答もあるが、この子たちが1年2年先にどのような回答をするか、とても興味深く感じている。こういった、プラスにもマイナスにもとれる生の言葉がその子らしさを表していて、とても興味深く思う。

○ステップの進路で、3年生の定時制高校生2人が卒業しない、とのことだが、この2人は来年度の卒業か。

○夜間定時なので、4年制を選択している。

○学習支援利用者の高校卒業後の進路は、目に見える成果であると思うが、進路についてどのような形で聞き取りをしているのか。

○キャリアカウンセリングや学習支援の中での聞き取りで聴取している。キャリアカウンセリングの結果については次回の会議で報告したいと考えている。

○ぜひお願いしたい。どういう進路を選んだかだけでなく、職業意識や社会性の育成状況をぜひ知りたいと考えている。就職希望者が中心になると思うが、学校を離れた後の支援の場として、サポートステーションやヤングジョブ等、困ったときに相談する場があることも教えて欲しい。キャリア学習の予定はあるか。

○高校3年生を集めた座談会を予定しており、そこで伝えていければと考えている。

○次回の会議で状況等をご報告いただきたい。

○3月1日に公立高校の卒業式があるが、定時制では1年生の人数が多く、2年生がその半分、3年生がさらにその半分と、多くの生徒たちが中退していってしまう。4年生はあと1年ということもあり、あまり変わらない。ステップ利用者は3年生がいずれも残っているので、その点は支援の成果が表れているのだと思う。

- 資料5の14頁、「ステップ・ジュニア」の今後の課題について、学習課題のある児童や集団行動が苦手な児童への対応は、大きな問題だと思うが、教員間でも大きな課題となっていることを高校生がどのように携わっていけるのか、という課題がある。来年度は、役割分担等を考えていただくとありがたい。
- 高校生には児童に近い目線での話し相手や一緒に遊ぶなど、できるところからお願いしていきたいと考えている。
- 「ステップ」で、高浜市は進路調査や追跡調査をしてフォローしており、これは他ではあまり見られない。高卒で就職しても、1年目を乗り切ることができれば、その後の離職率は大卒とあまり変わらないというデータがある。一方で、進学しても中退する者も多いのでフォローが必要であり、たとえ進学・就職しても3年くらいは声掛けをしていく必要があると感じている。

「ステップ・ジュニア」の高校生ボランティアについては、学習支援という場の中で皆が育ちあう、という状況に持っていくのが良いと思う。関わり合いの中で自ら体験し、学んでいく過程を通じて高校生も成長していければと考えている。
- 「ステップ」利用者では、進学を志す生徒たちも多いので、母子家庭の福祉資金の中では無利子で融資できるものがあり、返済期間も最長20年間あるので、活用いただければと考えている。県の制度であり、年に7回しか申請できず、審査もあるので利用を希望される場合は早めにご相談いただきたい。
- 今回お話のあった進路についての話や、就職の相談先については、保護者にも情報提供をお願いしたい。また、中退等にかかる相談機関も教えて欲しい。

#### 4. その他

##### ○次回の開催について

今年度の会議はこれで終了とし、次年度は2回の開催を予定している。

##### [予定議題]

- ① 今回の議論を踏まえた対応方針等
- ② 平成30年度の子ども健全育成支援員の活動実績
- ③ 平成30年度の「ステップ」「ステップ・ジュニア」の状況報告
- ④ その他